

## 令和 7 年度明和町公営企業会計決算審査意見書

### 第 1. 審査の概要

#### 1. 審査の対象

- (1) 令和 7 年度明和町水道事業会計決算
- (2) 令和 7 年度明和町下水道事業会計決算

#### 2. 審査の期間 令和 8 年 7 月 2 4 日

#### 3. 実施審査場所 明和町役場委員会室

#### 4. 審査の手順

この決算審査にあたっては、例月検査での上下水道事業の経営成績、及び財政状況を適正に表示しているかどうかを検証し、関係諸帳簿及び帳簿、証拠書類との照合等の審査手続を実施した上で、決算事業の報告を聴取するなどの査定手続を行った。

## 第2. 審査の結果（水道事業会計）

### 1. 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、一部を除き水道事業の経営成績及び財政状態を概ね適正に表示しているものと認められた。

### 2. 経営状況について

#### （1）経営成績について

損益計算書を見ると、令和7年度明和町水道事業の営業収益は349,510,837円であり、前年度の営業収益348,609,999円に比べ900,838円増加（対前年度100.3%）している。営業収益のうち、給水収益は348,564,737円で前年度の給水収益347,659,399円に比べ905,338円増加（対前年度100.3%）となっている。

一方、営業費用は309,761,399円であり、前年度の営業費用343,079,719円に比べ33,318,320円減少（対前年度90.3%）している。営業費用のうち、原水及び浄水費92,269,174円（対前年度95.7%）、配水及び給水費13,978,740円（対前年度140.7%）、総係費53,623,956円（対前年度79.1%）、減価償却費146,483,893円（対前年度87.4%）、となっている。

経営成績としては、水道事業収益が406,896,584円、水道事業費用が325,818,341円で、令和7年度は81,078,243円の純利益があった。

また、企業債明細書を見ると、令和7度における企業債の発行は21,400,000円で、未償還残額は974,789,819円となっている。また、令和7年度の元金の償還額は120,685,330円となっている。

#### （2）施設の利用状況について

事業概要推移表を見ると、施設の利用状況の良否を総合的に表示する施設利用率は、令和5年度70.7%、令和6年度71.3%、令和7年度72.8%となっている。

施設利用率を負荷率と最大稼働率に分けてみると、負荷率は、令和5年度86.7%、令和6年度89.8%、令和7年度91.7%となっている。

また、最大稼働率は、令和5年度81.5%、令和6年度79.4%、令和7年度79.5%となり、適正な稼働率となった。

#### （3）財政状況について

令和7年度における資本的収入が資本的支出に対して不足する額218,452,199円は損益勘定留保資金、減債積立金の取り崩しで賄われている。前年度の不足額172,447,050円に比べると46,005,149円（対前年度126.7%）の増加である。

令和7年度の財政状況は、正味運転資金（流動資産合計－流動負債合計）が373,057,686円で、前年度375,103,167円より2,045,481円減少している。

#### （４）建設改良工事について

令和７年度における建設改良費の決算額は 155,498,570 円で、予算額に対する執行率は 65.5%となっている。前年度に比べると、12,028,475 円の減となっている。

令和７年度の主な事業としては老朽管更新工事（有爾中）、宮川流域下水道事業（斎宮）に伴う水道管移設工事等が実施されている。

また、設置から７年を経過する量水器の取替工事（明和町全域）、各水源地における水源地施設修繕工事、水源地施設監視端末装置更新工事が実施されている。

### ３．是正改善を要する事項

固定資産のうち、車両運搬具、機械工具、受贈財産に減価償却漏れが疑われる。これらを精査し、速やかに修正を求める。

## む す び

水道事業の経営に大きく影響する、年間有収水量率は 80.3%となり昨年より 1.8ポイント減少している。有収水量率が伸びない理由としては、公共工事による水道管移設に伴う洗管作業などの要因も考えられるが、当町には設置から 40 年以上が経過する老朽管が多く存在するため、今後も貴重な水資源の有効活用という認識に立ち、漏水対策を推進し一層の改善を図られたい。

また、水道料金の収納状況については、収納率が 95.0%となり昨年より 0.1ポイント上昇している。今後も納付機会の拡充及び徴収体制の強化を図り、滞納を見逃すことなく早期に追跡調査等を行い、効率・効果的な収納業務に努めることにより、より一層の収納率の向上を要望する。

水道施設は、住民生活に欠くことのできない重要なライフラインであり、水質管理及び危機管理は、安全な水道水を安定供給するために不可欠である。水道施設の老朽化対策、耐震化の推進とあわせ、中長期的な展望に立ち、さらなる経営の合理化と、効率・効果的かつ健全な水道事業経営を行い、すべての町民に「安心して飲める水を安定して供給する」水道事業の目的と責務を果たすため、なお一層の努力を期待するものである。

### 第3. 審査の結果（下水道事業会計）

#### 1. 決算諸表について

審査に付された決算諸表は、下水道事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

#### 2. 経営状況について

##### （1）経営成績について

損益計算書を見ると、令和7年度明和町下水道事業の営業収益は116,309,690円であり、営業収益のうち、下水道使用料は113,955,690円となっている。

一方、営業費用は458,109,507円であり、営業費用のうち、管渠費1,693,255円、処理場費123,559,022円、総係費28,174,698円、流域下水道管理運営費負担金13,757,289円、減価償却費290,925,243円となっている。

経営成績としては、下水道事業収益が535,942,447円、下水道事業費用が527,860,093円で、令和7年度は8,082,354円の純利益があった。

また、企業債明細書を見ると、令和7年度における企業債の発行は219,100,000円で、未償還残額は5,105,671,474円となっている。また、令和7年度の元金の償還額は284,546,439円となっている。

##### （2）業務量について

行政区域内人口22,451人のうち、処理区域内人口は9,066人となっており、処理区域面積は343ha、普及率は40.4%、有収水量は874,894m<sup>3</sup>となっている。

##### （3）財政状況について

令和7年度における資本的収入が資本的支出に対して不足する額202,560,479円は損益勘定留保資金等で賄われている。

また、流動比率（流動資産/流動負債）は57.7%となり、正味運転資金は231,876,921円不足している。

##### （4）建設改良工事について

令和7年度における建設改良費の決算額は418,459,040円で、予算額に対する執行率は67.0%となっている。

令和7年度の主な事業としては宮川流域関連公共下水道事業（上野）の管路施設工事を実施し、令和8年度の供用開始区域の拡大に向けた事業進捗を図られている。

#### 3. 是正改善を要する事項

処理費用を料金で回収できない状況で3年連続黒字決算となっている。一般会計からの基準外繰入金について慎重に取り扱うように求める。

## む す び

令和5年4月1日より明和町下水道事業（公共下水道事業・農業集落排水事業）は、正確な経営状況を把握し、事業運営の効率化や健全化を図ることを目的として、地方公営企業法を適用し、官公庁会計から公営企業会計に移行した。移行から3年経過したことから、前年度決算と比較し、審査を行った。

令和7年度明和町下水道事業会計決算によると、汚水の処理経費（事業費合計）524,994千円に対して使用料収入は113,956千円であり、不足する額の多くを一般会計からの繰入金288,700千円で賄っていることが明らかになった。

ただし、公費で負担すべき繰入金（収益的支出及び資本的支出）もあることから、内容を精査したうえで、基準外繰入額を圧縮すべく使用料単価の適正化を図られたい。

また、施設の適正な維持管理により、効果的な機器修繕等を行い、安定的な施設運営を引き続き図られたい。

最後に、下水道使用料の徴収事務について、収納率の向上、収入未済額の縮減に努められたい。